

台風 11号 事前・事後対策について

平成 27年 7月 14日
営 農 支 援 課

● 普通作物

【早期水稻】（登熟期～成熟期）

（1）予想される被害状況

今年は長期間の低温・日照不足で稲が軟らかく根の活力も低下しているため、倒伏や登熟不良などの被害が発生しやすい状況にあるので、早めに十分な対策を行う。

- ① 強風による茎葉の損傷や籾擦れが発生する。
- ② 倒伏による登熟不良や稲株の枯れが発生する。
- ③ 高温乾燥風での玄米の登熟障害や稲株の枯れが発生する。

※ 7月 14 現在の台風進路予想は 17 日頃に四国を北上するが、この際宮崎県では西からの乾燥風が吹く見込みである。

（参 考：平成 19 年 7 月 14 日台風 4 号の早期水稻の被害）

・ 台風通過後の西からの吹き返しの高温・乾燥風で、稲に登熟障害が発生し、その年の県全体の玄米等級検査で 7 割は規格外となり、1 等米率は僅か 0.2% に留まる被害となった。

- ④ 浸・冠水や土砂の流入が発生する。
- ⑤ 沿海部では潮風害が発生する。

（2）事前対策

- ① 倒伏や脱水症状の軽減のため、深水管理とし、吹返しが止むまで続ける。
※ 但し、棚田等で畦畔崩壊の恐れのあるほ場は行わない。
- ② 浸・冠水しやすい水田では、溝切りや排水溝の整備を行う。
- ③ 成熟期にあるものは速やかに収穫する。

（3）事後対策

- ① 台風通過後も、吹き返しの高温乾燥風で生育障害が発生する場合があるので、風が止むまで湛水状態を保つ。
- ② 浸・冠水したところでは、速やかに排水して新しい用水と入れ替える。
- ③ いもち病や紋枯病、ウンカ類の発生に注意し適宜防除する。
- ④ 倒伏した株は隣の株に乗せたりして、穂が地面に接しないようにする。
※ 倒伏の状態によっては、株を動かすと損傷を大きくするので注意する。
- ⑤ 収穫日が近く地盤の軟らかいほ場では、停滞水のある部分の畦を切るなどして効率よく排水し、地盤を固めていく。
- ⑥ 倒伏や長雨により穂発芽や病虫害被害のおそれのあるところでは、早めに収穫する。
- ⑦ 穂発芽等の被害箇所は刈分けし、全体の品質が低下するのを防ぐ。
- ⑧ ほ場に飛散したゴミは、作業や機械に支障を及ぼすので早めに除去する。
- ⑨ 潮風を受けた場合は、直ちに真水を散水し新しい用水を入れる。

- ⑩ 収穫後に籾を高温下に長時間置くと玄米が変質するので、速やかに通風管理や乾燥作業を行う。
- ⑪ 籾乾燥は高温での急激乾燥や、過乾燥とならないよう注意する。

【留意事項】

台風による倒伏や乾燥風での登熟障害の他、本年は長期間の低温、日照不足の影響で見た目以上に減収程度が大きい場合もあるので、ほ場毎に稲株をよく観察し、N O S A I への被害申告を行う場合は必ず収穫前までに行う。

【普通期水稻】（分けつ期～幼穂形成期）

（１）予想される被害状況

- ① 強風による茎葉の損傷が発生する。
- ② 浸・冠水や土砂の流入が発生する。

（２）事前対策

- ① 茎葉の損傷や脱水症状の軽減のため、深水管理とする。
※但し、棚田等で畦畔崩壊の恐れのあるほ場は行わない。
- ② 浸・冠水しやすい水田では、溝切りや排水溝の整備を行う。

（３）事後対策

- ① 台風通過後も吹き返しの高温乾燥風がある場合、生育障害が発生する恐れがあるので、風が止むまで湛水状態を保つ。
- ② 浸・冠水したところでは、排水して新しい用水と入れ替える。
- ③ いもち病や紋枯病、白葉枯病、ウンカ類の発生に注意し適宜防除する。
- ④ ほ場に飛散したゴミは、作業や機械に支障を及ぼすので早めに除去する。

【大豆】（ほ場準備～播種期～生育初期）

（１）予想される被害状況

- ① 土壌が過湿で耕耘・整地及び播種作業が遅れ、初期生育が悪くなる。
- ② 播種後の湿害等による発芽障害が発生する。
- ③ 強風での茎葉の損傷や湿害での生育不良が発生する。

（２）事前対策

- ① 浸・冠水等の湿害に備え、溝切りや排水溝の整備を行う。
- ② 播種が遅れる場合は、株間を短くして多めに播種する。
- ③ 中耕・培土の時期にあるほ場では、倒伏軽減のために土寄せする。

（３）事後対策

- ① 冠水したら速やかに排水し、侵食された畦は早めに土寄せする。
- ② 欠株が生じた場合は早めに追播きする。
- ③ 倒伏した株はできるだけ起こして、土寄せする。
- ④ ハスモンヨトウ等の病害虫の発生に注意し、適宜防除する。

●野菜

【施設野菜全般】

(1) 事前対策

- ① ハウスバンドを点検し、ゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ② ビニル破損や隙間を点検し、破損箇所は早急に補修する。
- ③ ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度は増す。
- ④ ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ⑤ 強風によりハウス倒壊の危険がある場合（風速25m/s以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑥ ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ⑦ 防風ネットの設置してあるほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ⑧ ハウス周囲を点検し、強風で飛びそうなものは片付けるとともに、燃料タンク等の付帯設備がしっかり固定されているかを確認する。

※収穫終了後について

収穫が終了したハウスについても、破損ビニルやハウス内のマルチ等の資材が飛散しないよう、事前対策を徹底すること。



ハウス妻面の防風ネット設置例：

細かいネットを張った上から、比較的大きな目合のネットで押さえている

(2) 事後対策

- ① 強風がおさまったら、直ちに換気を行い、補強で使用した防風ネット・寒冷紗等も除去する。
- ② ビニル破損等により生じた、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③ 湛水した場合速やかに排水を行う。
- ④ 草勢の低下や茎葉が損傷すると病害が発生しやすいので、登録農薬を散布する。
- ⑤ 速効性窒素肥料を成分で10aあたり2～3kg施す。

【雨除けピーマン】

(1) 予想される被害状況

茎葉の損傷、傷果の発生、落果等による収量・品質の低下

(2) 事前対策

天井ビニルを剥ぎ、台風に備える。

(3) 事後対策

- ① ハウスビニル・防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くして、床面を乾燥させる。
- ② 枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。
- ③ 倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ④ 傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ⑤ 速効性窒素肥料を成分で10a当たり2～3kg施す。

【いちご（育苗期）】

(1) 予想される被害状況

冠水による病害の蔓延

(2) 事前対策

- ① 排水溝等を設置し、排水に努める。
- ② 寒冷紗・防風ネット等を苗の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。また、育苗ハウスの周囲に2～3mの防風ネットを設置し防風対策を講じる。

(3) 事後対策

- ① 寒冷紗・防風ネット等の苗の上にかけていた被覆資材を、直ちに除去し、通風を良くする。
- ② 苗の冠部が土に埋まったものは、速やかに土を除去する。
- ③ 雨風に当たると炭そ病等の病苗が増えるので、病株を早めに除去する。
- ④ 草勢の低下により病害虫の発生が心配されるので、薬剤散布を実施する。特に土壌伝染性病害に注意する。

【露地野菜類全般】

(1) 事前対策

- ① 強風、大雨が予想されるので、排水溝の整備行う。



排水対策①畦に直交に整備された排水路



排水対策②傾斜の大きいほ場のため、表土流出軽減を目的にマルチで簡易集水路を整備している事例



排水対策③確実にほ場外に水を排出させます。



排水対策④パイプの敷設で畦畔の崩壊を防ぎ、ほ場外に水を排出させます。



排水対策⑤排水口の点検整備を行います。



排水対策⑥このような状態では排水口が機能しません。

(2) 事後対策

各作物毎に記載

【かんしょ】

(1) 予想される被害状況

畝が冠水するといもが変質する

(2) 事前対策

排水溝等を設置し、排水に努める。

(3) 事後対策

- ① 冠水するといもが変質するので、冠水した場合は早急に排水を行う。
- ② 根が露出している場合は培土をおこない、少量の窒素肥料を追肥して、草勢の回復を図るが、収穫可能な場合は追肥は行わず早めに収穫する。

【かぼちゃ】

(1) 事前対策

- ① 排水溝等を設置し、排水に努める。
- ② 寒冷紗・防風ネット等を株の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。

(2) 事後対策

- ① 寒冷紗・防風ネット等の上にかけていた被覆資材を、直ちに除去し、通風を良くする。
- ② 茎葉の損傷により病気が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

【さといも】

(1) 事前対策

- ① 排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ① 冠水したほ場では速かに排水を行い、早めに追肥を行う。
- ② 株元まで冠水した場合は排水、マルチを剥いてから追肥、培土を行う。
- ③ 根が露出しているものは、早めに追肥して軽く土寄せする。
- ④ 茎葉の損傷により病気が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

【オクラ】

(1) 事前対策

排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

播種後～生育初期

苗立ち枯れ病が出やすくなるので、殺菌剤をかん注する。

収穫期

- ① 冠水したほ場では、速かに排水を行う。
- ② 倒伏したら上向きに誘引し、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③ 速効性肥料を追肥し、薬剤散布を行う。

【露地きゅうり】

(1) 事前対策

- ① 栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。
- ② 排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ① 枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。
- ② 倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ③ 傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④ 速効性窒素肥料を成分で10a当たり2～3kg施す。

【きゃべつ、はくさい】

事後対策

薬剤散布を行い、少量の窒素肥料を葉面散布して草勢回復を図る。

【しょうが】

(1) 事前対策

- ① 排水溝等を設置し、排水に努める。
- ② 生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ③ 栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。

(2) 事後対策

- ① 冠水したほ場では速かに排水を行い、早めに追肥を行う。
- ② 根が露出しているものは、早めに追肥して軽く土寄せする。
- ③ 茎葉の損傷部分や草勢の低下により病気が発生しやすいので、登録農薬を散布するとともに、少量の窒素肥料を葉面散布して草勢回復を図る。

● 果樹

【果樹共通】

(1) 予想される被害状況

園内滞水に伴う根系の枯死及び樹勢低下。
強風による枝の折損及び落葉、落果。

(2) 事前対策

- ① ほ場への降雨が速やかに排出されるように園内の排水対策を徹底する。
- ② 防風ネットの点検を行う。
- ③ 枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で8の字型に縛っておく。

(3) 事後対策

- ① 結束した枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。
- ② 幼木・若木・根元から揺さぶられた樹・倒伏した樹は早急に立て直し、盛り土、根締めを行い、支柱で固定する。
- ③ 枝折れ、枝裂けしたところは切り取り、大きな傷口には塗布剤を塗る。
- ④ 枝が裂けたものは、軽傷であれば縄などでしっかり絞って固定し、回復を図るが、激しい場合は切り取って切り口に塗布剤を塗る。
- ⑤ 落葉のひどいものには、日焼けを防止するために、石灰乳を塗布する。

【かんきつ類全般】

(1) 予想される被害状況

風傷に伴う果実や葉のかいよう病発生。
マルチ資材の破損。
黒点病の増加、褐色腐敗病の発生。
落葉及び落果。
塩害による樹勢低下（沿海地帯）。

(2) 事前対策

- ① 襲来前に銅水和剤の散布を行う。
- ② 温州みかんなどのマルチ栽培では、被覆資材が風であおられないように土のう等で固定する。

(3) 事後対策

- ① 襲来前の殺菌剤の散布を実施していないところでは、銅水和剤の散布を行う。
- ② 前回の黒点病防除から250mm以上の降雨があった場合は、褐色腐敗病対策を兼ねてマンゼブ水和剤の散布を行う。
- ③ 塩害が懸念される場合は、6時間以内に2～3トン/10a以上の水で洗い流す。その後落葉が発生した場合は、程度に応じた摘果（場合によっては全摘果）や枯れ枝の整理を行う。

【完熟きんかん】

基本的な対策については、かんきつ類全般に準じて実施する。

(1) 予想される被害状況

強風による新梢の折損。

開花時の花粉破裂に伴う結果不良。

幼果の傷の増加。

(2) 事前対策

① 防風ネットを設置し風を弱めるようにする。

② 被覆し開花期加温を行っているハウスのうち、開花期に至っている園では、被覆を補強し、雨に当たらないようにする。

【マンゴー ビニル除去園】

(1) 予想される被害状況

強風による新梢の折損及び折損部からの炭そ病発生。

風傷に伴う葉のかいよう病発生。

(2) 事前対策

① 襲来前に銅水和剤の散布を行う。

② 防風対策として、ネットや寒冷紗等の展張を行う。

(3) 事後対策

① 新梢が折損した場合、発生部から除去し、炭そ病に効果のある殺菌剤を散布する。

【なし、ぶどう】

(1) 予想される被害状況

落果及び落葉。

葉や枝に発生する各種の病害。

(2) 事前対策

① 棚や防風ネットの補修を早めに行うとともに、棚の揺れの激しいところは支柱を立てて結束するなど補強を行う。

② 側枝等の棚への誘引を見回り、ゆるんでいる場合は締め直す。

(3) 事後対策

① 病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。

●花き

【露地花き全般】

(1) 予想される被害状況

冠水、滞水、風雨による損傷、強風による倒伏、泥はねによる汚れ。

(2) 事前対策

- ① 滞水しないように排水溝を整備する。
- ② マルチは土寄せ、市販止め具等によりしっかりとおさえ、風による剥がれを防ぐ。
- ③ 生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定を実施し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ④ ほ場周辺の片づけを行い、飛来物による作物の被害を防ぐ。

(3) 事後対策

- ① 冠水・浸水があった場合は、速やかに排水作業を行う。
- ② 必要に応じて殺菌剤、液肥の葉面散布、追肥を行う。

【シキミ、キイチゴ】

(1) 予想される被害状況

冠水、滞水、風雨による損傷、強風による倒伏、泥はねによる汚れ。

(2) 事前対策

- ① 幼木は倒れる可能性があるので、支柱で固定する。

(3) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- ② 倒れた木、傾いた木は無理に起こすと根が切れて、枯死する場合がありますので、段階的に起こして、正常な状態に戻す。
- ③ ほ場に土砂が流入した場合、根の活力が低下して枯死する場合がありますので速やかに株の周りの土砂を取り除く。

【キク・露地電照】

(1) 予想される被害状況

冠水、滞水、風雨による損傷、強風による倒伏、泥はねによる汚れ。

(2) 事前対策

- ① 切り前が近く、収穫が可能なものはできるだけ収穫をして十分に水揚げをする。

(3) 事後対策

- ① 倒伏したものは曲がり防止のためできるだけ早めに引き起こし、薬剤散布を行う。

【施設・雨よけ花き全般】

(1) 予想される被害状況

被覆資材、ハウスの破損、冠水、滞水、強風による茎葉の損傷、倒伏。

(2) 事前対策

- ① ハウスバンドを点検し、ゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ② ビニル破損や隙間を点検し、破損箇所は早急に補修する。
- ③ ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度は増す。
- ④ ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ⑤ 強風によりハウス倒壊の危険がある場合（風速25m/s以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑥ 冠水、滞水しないようにハウス周辺に排水溝を整備する。
- ⑦ 草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
- ⑧ ハウス内のかん水チューブやスプリンクラー・ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。

(3) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
- ② 台風後の高温・強日射の被害を防ぐために寒冷紗倒で被覆を行う。
- ③ 茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
- ④ 電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働するか点検・確認を実施する。

【ホオズキ】

(1) 予想される被害状況

被覆資材、ハウスの破損、冠水、滞水、強風による茎葉の損傷、倒伏。

(2) 事前対策

施設花き全般に準ずる。

(3) 事後対策

施設花き全般に準ずる。

【コチョウラン他、冷房ハウス等】

(1) 予想される被害状況

被覆資材、ハウスの破損、強風による損傷、停電による高温障害。

(2) 事前対策

- ① 長期停電に備え、自家発電等を用意する。
- ② 夜冷育苗中のデルフィニウム等の苗は、夜冷库内に収納する。
- ③ 外部遮光、被覆等は除去するかハウス上部に巻き上げて固定する。

(3) 事後対策

- ① 落蕾等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。
- ② 夜冷育苗の場合は、台風通過後、すみやかに遮光資材等の被覆を元に戻し、苗を夜冷库から外に出す。その他は施設花き全般に準ずる。

●茶

(1) 予想される被害状況

- 茶園の冠水、潮風害の発生。
- 幼木の倒伏、折損、落葉。
- 製茶工場、防霜施設の損壊。

(2) 事前対策

- ① 幼木園では防風ネットを設置し、株元やマルチ資材への土寄せにより、茶株の揺れやマルチのばたつきを防止するとともに、排水対策を行う。
- ② 2～3年生の茶園では、徒長枝を整せん枝する。
- ③ 製茶工場（煙突、屋根、雨とい、窓等）の点検・整備・補強を行う。
- ④ 防霜施設の点検を行う。

(3) 事後対策

- ① 風雨による倒伏や地際部に損傷を受けた幼木園では、株元やマルチ資材への土寄せ、補修を行う。
- ② 降雨が少なく、海からの風で塩分が付着したとみられる茶園では、できるだけ早くスプリンクラー等で散水（5mm以上）し塩分を除去する。
- ③ 強風により葉の損傷を受けた茶園では殺菌剤を散布する。
- ④ 滞水・浸食部分の速やかな排水処理と改修を行う。

●畜産

【畜産全般】

(1) 事前対策

- ① 畜舎の防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、破損に注意する。
- ② 特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、飼料（配合飼料、青刈り、サイレージ含）は、余裕をもって準備する。
- ③ 停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を行っておく。
- ④ 断水の可能性がある場合には、必要最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。

(2) 事後対策

浸水した畜舎は、台風通過後速やかに消毒する。

【養豚・養鶏】

(1) 事前対策

- ① 鶏舎内への雨の打ちこみを避け、床に湿り防止を行う。
- ② ウィンドウレス畜舎では、非常用発電機の燃料の確保と、点検を行い、停電時に換気扇が停止しないように注意する。

(2) 事後対策

台風通過後は、急激に気温が上昇することがあるので、肥育豚及び出荷前のブロイラーでは、畜舎を開放するなど換気に努める。

【飼料作物】

- ① 発芽間もない飼料作物は、長期間の冠水で湿害が予想されるので、ほ場周辺に排水溝を設置し水が貯まりにくいようにする。また、冠水した場合は速やかに排水するとともに、水が引いた後は、生育不良対策として、10a当たり窒素成分で1kg程度の追肥を行う。
- ② 刈取り適期のトウモロコシは、早めに収穫しサイレージ等に調整する。
- ③ 収穫間近のソルガムは、倒伏した場合、接地点から発芽し、収穫時に土が混入しやすくなるので、すみやかに収穫する。